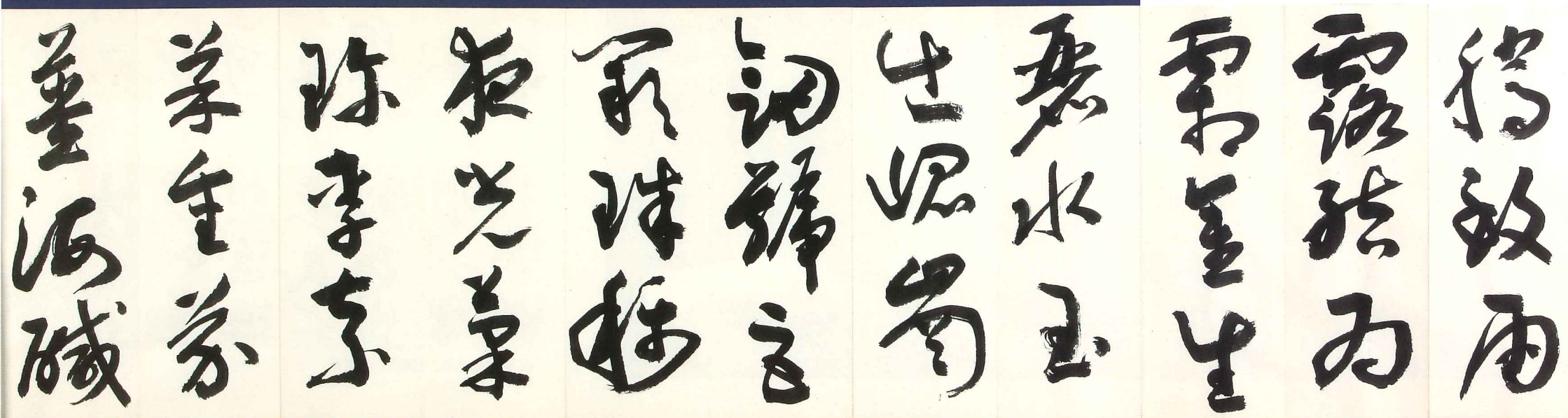


徳島県立文学書道館
書道特別展

小坂奇石の折帖



小坂奇石「臨 懷素 草書千字文」(部分)
84～85歳筆

2018年6月22日(金)～8月5日(日)

1階 特別展示室・ギャラリー

トーク・作品解説

7月21日(土) 13:00～14:30

講師／江口大象 (璞社会長)

定員／先着80人 ※要申込

〈申し込み方法〉

はがき・FAX・メールのいずれかに「小坂奇石展 トーク・作品解説」と明記の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を記入し、当館までお申し込みください。

当館1階受付でも申し込めます。

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日(ただし7月16日は開館、翌日休館)

観覧料 一般510円(400円)

高校・大学生350円(280円)

小・中学生250円(200円)

()内は20人以上の団体割引料金。

小・中・高校生は土・日・祝日と夏休み期間中は無料です。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額です。

主催 徳島県立文学書道館
後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社
NHK徳島放送局 四国放送



言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>

メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp

徳島県海部郡美波町生まれで、昭和を代表する書家として知られる小坂奇石（1901～91年）。

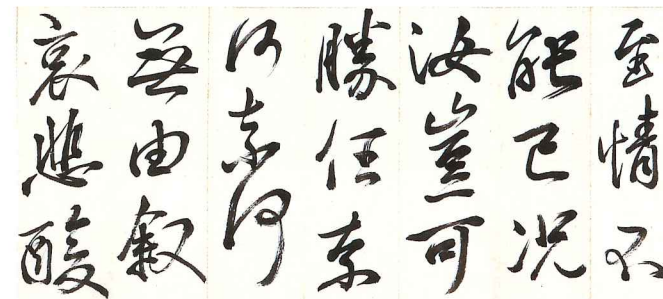
このたびは、奇石が門人に書き与えた臨書手本「折帖」を展観します。折帖は、作品のように用意周到に書かれたものではなく、またそのほとんどが古典の臨書ですが、奇石の書の背景を知る上で貴重な資料といえます。作品とは異なる魅力にあふれ、古典に忠実な壮年の臨書から、奇石ならではの書風がにじみ出た晩年の臨書へと変遷しているのも見て取れます。

本展では、奇石が書の根幹とした王羲之、顔真卿、米芾、王鐸の四家をはじめ、48歳から86歳までの折帖27種類、計35点を紹介します。

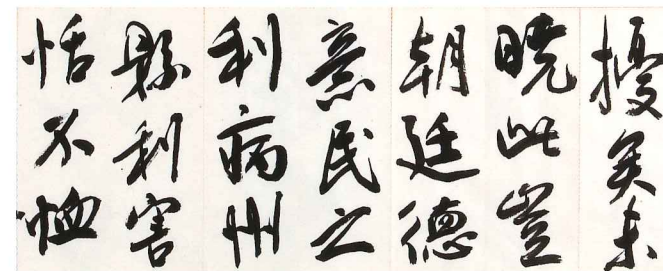
また、奇石ゆかりの書家、阿部捉龍、黒木拜石、田中白村の折帖なども展示します。



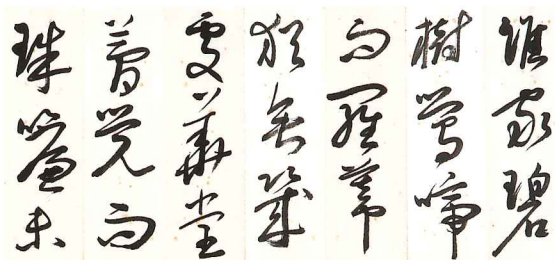
小坂奇石（83歳）



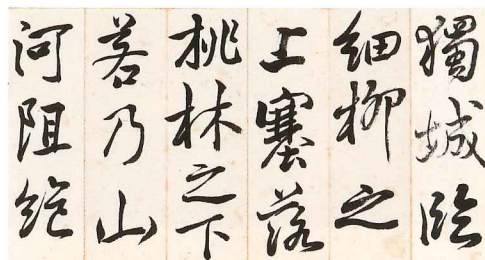
「臨 王羲之 尺牘」（部分）揮毫年齢不詳



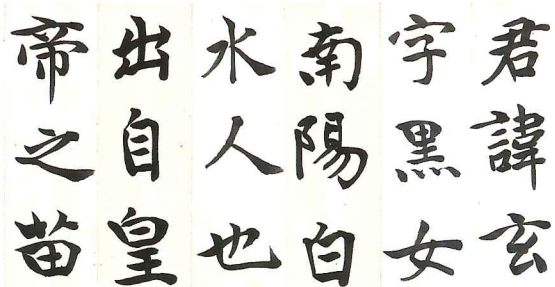
「臨 快雪堂米帖」（部分）83歳筆



「臨 伝藤原行成 粘葉本和漢朗詠集」（部分）56～57歳筆



「臨 褚遂良 枯樹賦」（部分）48歳筆



「臨 張玄墓誌銘」（部分）65歳筆

〈その他の主な展示作品〉

- 「臨 王羲之 蘭亭序」
- 「臨 張猛龍碑」
- 「臨 高貞碑」
- 「臨 孫過庭 書譜」
- 「臨 顔真卿 争座位文稿」
- 「臨 米芾 尺牘」
- 「臨 趙子昂 蘭亭十三跋」
- 「臨 王鐸 詩稿卷」

●交通アクセス (JR徳島駅から)

徒歩 約15分

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つめの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

バス

〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。

〔徳島バス〕2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。

タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進、助任川を渡り、4つめの信号を右折し約300m。

駐車場

当館北側にあります(43台・大型バス2台)。

